

## コロナでの各事業所への影響

### 1. 児童福祉施設

#### 【悪い影響】

- ・行政より外出の自粛を要請されたため、利用者様と一緒に外出イベントへ行けず、利用者さんがフラストレーション、ストレスが溜まった。
- ・学校が急に休校になり、子どもたちの生活リズムが大幅に崩れてしまった。
- ・このコロナについて親御様の危機感をあまり感じなかった。
- ・行政からできる限り長時間の開所をして、多くの人数を受け入れるようにとの要請があったが、普段より多くの利用者様を受け入れたため、利用者様、スタッフの教育をしっかり熟考出来なかった。また、三密を避けることを言われているが、事業所内では、三密になりがちになった。
- ・利用者の毎日の検温はしていたが、多くの利用者様の中に無自覚で保菌されている方がいるのではないかという危惧はあった。
- ・利用者、スタッフのちょっとした風邪症状にも、不安になることがあった。
- ・基礎疾患を持っているスタッフは自分になったときのことを考え恐怖心が強かった。
- ・利用者さんの、学業が遅れないように宿題を事業所でやらせて欲しいと熱望されたが、その量は普段より多く、その為個別に対応しないといけない場面が多く、通常時より宿題のフォローが大変でした。
- ・現場で勤務している高齢者スタッフのメンタルケアをどうしていたらいいのかが悩みました。
- ・コロナが原因で行政から様々な特例が出されたが、それが分かりにくかった。

#### 【良い影響】

- ・コロナ対策を通して手洗い、消毒等の意識が高まった。
- ・利用者同士長い時間共有した事で、以前よりも関係性が深まった。
- ・オンライン授業の開始を契機に、動画撮影といった新しい挑戦が出来、新しい事へ挑戦する意識が高まった。

## 2. 障がい者支援施設

### 【悪い影響】

- ・3月休校開始当初は子どものいるスタッフの出勤時間に制限ができバランスが崩れ、出勤調整に時間がかかった。
- ・緊急事態宣言後は、利用をキャンセルする利用者が出た。
- ・全体的に4月中旬頃からコロナに対する不安やストレスが心身共に現れる利用者が増えた。精神面の不安定さから7割は何かしらトラブルを起こした。
- ・コロナ防止のため短期入所、日中短期入所のキャンセルが相次いだが救済措置対象ではなかったため売り上げが減少した。
- ・外に出られないため利用者様のストレスが溜まりやすく、不穏になるケースが多かった。
- ・コロナ関連の問い合わせ対応が非常に多く工数が取られた。(対策相談・イベントの実施有無・施設利用についてなど)

### 【良い影響】

- ・常日頃から、我々医療福祉は利用者さんを第一に考え受け入れを行うことを教育していたため、スタッフからコロナでの不満の声は無かった。むしろ「福祉」職の意味や信念を伝え再度理解してもらえ、良い機会となった。
- ・毎日の検温や消毒などを通して、意識的に衛生面や健康管理の支援を定着させる事ができた。
- ・いつ誰がかかってもおかしくないという緊張感により、スタッフ体調不良時にしっかり休ませる事が出来るような余裕を持った計画性のある業務を意識できた。
- ・就労支援B型で植物ショップを運営してるため、おうち時間のガーデニングブームに乗って売上を上げる事ができた。
- ・マスク制作や、他事業所のヘルプ、動画制作を通して、事業所単体ではなく、会社の一員としてグループで支え合う、貢献するという意識をさらに強く持たせる事ができたし、そもそもそういったスタンスでいてくれるスタッフの頼もしさに気づく事ができた。

### 3. 高齢者支援施設

#### 【悪い影響】

- ・スタッフの中でも心配や不安の声が多く、特に行政からの休業要請期間中は休むスタッフもいて少ない人数での運営が大変だった。
- ・休業要請で他のデイサービスが一斉に休む中、独居で食事、入浴が出来ない高齢者の生命にかかわると思い営業を行ったが、もし自施設でコロナ感染者が出たらメンタル的にかかなりの負担でした。
- ・高齢者は死亡リスクが高く、感染防止の為に手洗い、消毒、マスク着用、換気等を徹底しましたが、耳の聞こえが悪く近くで話さないといけない方や、認知症でマスク着用がなかなかしつかり出来ない方等の対応も不安要素ではありました。
- ・入居施設側の外部との接触禁止で休みが多く利用者様の減少が発生した。
- ・熱や体調への配慮で神経質になりスタッフへのメンタルケアが大変だった。
- ・ご家族様からのコロナ対策の問い合わせ、対応が大変だった。
- ・学校が休校になったお子さんがいるスタッフは仕事と家事で大変だった。

#### 【良い影響】

- ・コロナ対策を通して手洗い、消毒等の意識が高まった。

### 総評

高齢事業については名古屋市から閉所の要請が来たが、利用者さんのことを第一に考えると事業所を閉所するという選択肢はなかった。

また、児童福祉施設、障がい者支援施設は行政より、開所の要請、ご家庭の事情を鑑みて定員を超過しての受け入れの指示があった。

その中で、現場スタッフは感染のリスクと常に向き合いながら、日々の仕事に努めた。

そのためスタッフ、利用者さんへのメンタルケアにかかなりの時間がとられ、適切な支援が難しかった。

今後はコロナの第2波のことを想定して、スタッフ、利用者のケアの問題を中心に行政と事業所の連携をさらに密にしていく必要があると考えます。